

4 段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
--------	--------	-----------	------------	----------

学校経営 ビジョン	笑顔で登校 笑顔で下校 思いやりあふれる永久津っ子の育成 学校・家庭・地域がいった地になって 144 年の絆のかけはしをつなぐ
--------------	--

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な 数値目標等	具体的な取組 【学びたい度 70% (H28 59.4%)】	評価		結果の考察・分析および改善策
				自己	総合	
知育	【目標】 学力向上の推進 ◎ 「分かる授業」「できる授業」を目指した指導方法等の工夫改善等を通して、児童一人一人が学力の向上を実感できるようにする。	① 個に応じた指導を行うことによる学習内容の定着	○ 「わかる」「できる」まで教え、「しっかり見届ける」授業づくり ○ 1 単位時間の授業の充実、指導内容の精選、指示や発問の工夫 ○ 永久津学 A・B・C の活用、web 単元テストの 100% 実施、学力アップノート	3	3	児童の自己評価「勉強したことはだいたい分かっている」で「とてもよい」「よい」の児童が 94.3% であった。 学力テストや単元テストで一人一人の達成状況を把握し、個に応じた指導を行うことができた。個に応じた指導を充実させるため、担任以外の教職員が、3～5 年生の算数科の授業に加わり、二人体制による授業を実施した。Web テストを計画的に実施した。今後は、個人差への対応をするためにさらにきめ細かな指導を行う必要がある。
	【手段・ゴールイメージ】 1 児童の実態を踏まえた単元計画、個に応じた指導と支援、見届けの充実	② 年間一人 1 回以上の研究授業の実施	○ 校務分掌を活用し、主任等を中心にした学び合い、教え合う体制の確立 ○ 年間一人 1 回以上の授業研究 ○ 児童の授業評価や CRT 比較による数値目標の設定	3		校務分掌を活用して OJT を実施し、学び合い、教え合う場面を設定することができた。 校内研究において、小中一貫して徳育に関する研究を推進してきた。(校内研 16 回、小中合同研 14 回) 年間一人 1 回の授業研究を行い、授業力向上に努めてきた。 今後は、1 月実施の CRT の結果を受け分析を行い、児童の指導に役立てていきたい。
	2 OJT を活用した意識改革、授業力の向上 3 立腰指導と基本的な学習習慣の徹底	③ 鉛筆の正しい持ち方と立腰の定着 85%	○ 立腰指導を月目標に位置付け、重点的指導の実施 ○ 定期的な鉛筆の持ち方調査の実施	3		月目標に立腰を位置づけ重点的に取り組み、児童の意識も高まり、話を聞く姿勢が良くなってきた。まだ、持続できない児童も見られるので継続して取り組んでいく必要がある。 鉛筆の持ち方について定期的に調査し、重点的に取り組み、向上が見られた。(7 月 24.3%、10 月 57.1%、12 月 68.6%) 児童意識調査でも、気を付けている児童が 55.7% と低かった。今後、さらに向上するように、児童だけでなく保護者や教職員の意識の向上を図り、指導の徹底を図る必要がある。
	4 家庭学習等の内容・方法の工夫、家庭・地域との連携	④ 家庭学習の実態調査による定着度の個人評価	○ 「学力向上・親子読書週間」の実施 ○ 児童・保護者の評価の実施	3		学級担任の指導により、家庭学習の習慣が身に付いてきた。 毎月、「学力向上・親子読書週間」を設定し、保護者の協力を得ながら、家庭学習の充実に努めることができた。 また、放課後子ども教室では、地域の方々に児童の学習指導を行っていただいた。

徳育	<p>【目標】豊かな心の教育の推進</p> <p>◎ 道徳や特別活動等との関連を踏まえた体験活動等を通して、児童一人一人に規範意識や思いやりの心を育む。</p> <p>【手段・ゴールイメージ】</p> <p>1 自他との関わりの中で自分を見つめることができる授業の展開</p> <p>2 小中9年間を見通した生活習慣の定着</p> <p>3 読書意欲を高める読書環境の整備</p> <p>4 家庭・地域への情報発信、教職員の個人目標の宣言、児童作品の新聞への投稿、児童の意識調査の比較による目標の設定</p>	① KSSVCの活用による豊かな体験活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研究（市徳育指定「特別の教科道徳」）において、小中一貫した研究の実施 ○ 感動を味わい、本物に触れる体験活動の実施 ○ 学校支援ボランティアの積極的な学校参画と関係機関と連携した活動 	4	<p>KSSVCなど、地域の方々の協力を得ることで、児童の心の成長につながるより豊かな体験活動を行うことができた。（米作り、昔の遊び、しめ縄作り、保育士体験、かくれ念仏洞の話など） ※1学末現在、ボランティアの延べ人数は約800人</p> <p>3年生では、福祉施設と連携し、高齢者疑似体験や交流活動を実施した。感動を味わい、本物に触れる体験活動を行うことができた。現在、卒業式に向けて、一人一鉢活動に取り組んでいる。</p>	
		② 基本的な生活に関する中学校との共通実践	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活に関する指導項目（挨拶、礼儀、廊下歩行、清掃など）の共通実践 	3		<p>基本的な生活に関する指導項目（あいさつ、礼儀、廊下歩行、清掃など）について、中学校と共通実践を行ってきた。あいさつについては、児童の意識も高まりつつあるが、個人差があるので個に応じた指導を継続していきたい。廊下歩行や無言清掃は、十分身に付いていない児童も見られるので、今後継続して指導していく必要がある。</p>
		③ 地域ボランティアによる読み聞かせの実施と学校図書協力員の活用による読書環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 良書と出会う機会（読み聞かせ）の設定 ○ 図書支援員の配置 ○ 図書貸出80冊 	4		<p>毎週月曜日の業前の時間に、地域ボランティア（永久津お話の会）の方々による読み聞かせを実施している。児童も大変楽しみにしており、今後も継続して取り組んでいきたい。</p> <p>学校図書館協力員が、児童の図書貸出や図書館設営等を行っている。新刊図書を工夫して紹介するなど、児童の読書意欲を高める工夫を行ってきた。</p> <p>1月末現在、図書の総貸出差数は5435冊で、一人平均77.6冊である。目標の一人80冊に向けて読書意欲を高めていきたい。</p>
		④ 家庭や地域への定期的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭・地域への定期的な情報発信 ○ 教職員による個人目標の宣言 ○ 児童作品の新聞等への投稿 	3		<p>学校便り、ホームページ、徳育通信（永久津のころ）等で家庭や地域に向けての情報発信を行ってきた。</p> <p>年度当初に、教職員の個人目標を設定し、職員室前の廊下に掲示した。教職員は、常時意識しながら日常の教育活動に取り組んでいる。</p> <p>児童作品の作品展の応募や新聞への投稿に取り組んできた。</p>

<p style="text-align: center;">体 育</p>	<p>【目標】 健やかな 身体の育成</p> <p>◎ 特色ある体力づくり活動等を通して、児童一人一人が健康・安全への意識を高め、命を守る力を身に付けることができるようにする。</p> <p>【手段・ゴールイメージ】</p> <p>1 個に応じた体力向上の推進</p> <p>2 実践的な危険予知・回避能力を育成するため、地域・保護者と協働した避難訓練の実施</p> <p>3 将来への健康への意識を高めるための保健指導の工夫改善</p> <p>4 家庭・地域との連携</p>	<p>① 新体力テストの分析を通じた個人目標の設定と業間活動の工夫</p>	<p>○ 体力・運動能力の実態把握と新体力テスト判定の向上</p> <p>○ 体力づくりや体育科学習指導法の工夫改善</p> <p>○ 業間活動、遊びの場づくりの工夫</p> <p>○ 早寝・早起き・朝ご飯、自立登校の奨励</p>	3	<p>体力テストでは、96種目中78種目で県平均を上回った。本校の児童の体力が県の平均と比べても高いことが明らかになった。学年間や男女間で体力差、個人差があるので、学年別・男女別・個別の取組が必要である。そこで、本年度も、「太陽の広場」での異学年交流を中心として体力の向上を図ってきた。11～12月は「持久走」に取り組み、現在は「なわとび」を通して体力向上に向けて取り組んでいる。</p> <p>家庭でもできる体力向上の取組については、全校集会で全児童に呼びかけを行ったり、学級通信、学級懇談会でも話題にして実施を呼びかけたりしたが、実施の状況把握まではできていない。定期的に取り組を振り返るための方法を考える必要がある。</p> <p>5月に風水害を想定した小中一貫した引き渡し訓練を実施した。その他、9月に地震を想定した避難訓練を行い、12月には火災を想定した避難訓練を消防署の協力を得ながら実施した。新燃岳噴火時は、緊急事態発生対応マニュアル全職員で再確認した。Jアラート等への対応についても至急取り組む必要がある。</p> <p>学級担任と養護教諭によるTTで保健指導に関する授業に取り組むことができた。（現在1・5・6年で実施済み、本年度中に全学年実施する。）</p> <p>養護教諭や学級担任の取組で、むし歯治療率が前年度より大きく伸びている。（1月末現在72.7%）今後は、個別の指導を行いながらさらに治療率を上げていきたい。</p> <p>7月に小中合同で学校保健委員会を実施し、保護者が救急救命法について学ぶ機会を設けることができた。1月には「がんに関する授業」を実施し、親子で健康について学ぶことができた。</p> <p>9月の小中合同運動会は、平日にもかかわらず、多くの保護者や地域の方の協力を得て実施することができた。</p> <p>1月末現在、欠席0の日は71日である。</p>
	<p>② 様々な危機を想定した避難訓練の実施</p>	<p>○ 不審者対応、風水害、地震、火事を想定した避難訓練の実施</p> <p>○ 救命救急法の実施</p>	3		
	<p>③ 養護教諭によるTT授業の全学年実施とむし歯治療率の向上</p>	<p>○ 養護教諭によるTT授業と歯磨き指導の実施</p> <p>○ むし歯治療率の向上</p>	3		
	<p>④ 学校保健委員会の実施と欠席0の日100日の達成</p>	<p>○ 学校保健委員会の実施</p> <p>○ 運動会、持久走大会での保護者との連携</p> <p>○ こぼやし運動会、駅伝大会等への協力</p> <p>○ 欠席0への挑戦</p>	3		

食育	<p>【目標】望ましい食習慣の育成</p> <p>◎ 学校と家庭・地域との連携を通して、児童一人一人が食に関する意識を高め、望ましい食習慣を身に付けることができるようにする。</p> <p>【手段・ゴールイメージ】</p> <p>1 自分の食習慣を振り返る授業や事業の展開</p> <p>2 一人一人に将来を見据えた食育指導の実施</p> <p>3 家庭・地域・関係機関との連携</p>	① 学校支援ボランティアの積極的な学校参画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業体験や弁当の日等の活動と関連付けた意図的な指導 ○ 学校支援ボランティアの積極的な学校参画 	4	4	<p>低学年の生活科で野菜作りを実施したり、5年生の総合的な学習の時間に米作りを実施したりした。6年生は、大豆作りに挑戦した。2月に大豆プロジェクトを実施予定である。</p> <p>米作りや大豆作りの学習では、学校支援ボランティアを活用した授業を行うことができた。</p>
		② 児童の意識調査の比較による目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常的な給食指導や養護教諭と連携した食育指導 ○ 郷土に触れる機会の充実 ○ 弁当の日の段階的指導とチャレンジクッキングの実施 	4		<p>日常の給食指導では、学級担任を中心に食に関する指導の充実を図ってきた。90%以上の児童が好き嫌いなく食べると回答し給食の残食もほとんどない。今後は、養護教諭との連携でさらに食への関心を高めていきたい。また、給食時の放送で郷土料理の紹介をすることによって、地域の料理や地元の食材への関心を高めることができた。</p> <p>10月のモーモースクールでは、外部講師を招いて、乳しぼり体験やバター作りを通して、畜産についての児童の興味・関心を高めることができた。</p> <p>年間3回の「弁当の日」や長期休業中の「チャレンジクッキング」を実施し、各家庭で積極的に取り組んでいただいた。</p>
		③ ホームページ等による保護者への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページによる保護者等への情報提供 ○ 安全管理を徹底した学校給食の提供 	3		<p>食育に関する取組の様子をホームページで紹介するなど情報公開に努めてきた。</p> <p>10月には、1年生の保護者を対象に給食試食会を実施した。</p> <p>給食センターとの連携により、安全管理を徹底した学校給食に努めてきた。しかし、12月には、白菜に虫がついていた件で給食のメニューが変更になったことがあった。確実に安全な給食の提供ができるよう、給食センターとも密に連携したい。</p>

次年度の方向性についての校長所見	<p>本年度も保護者や地域の方々から多くのご支援、ご協力を得て、学校の教育目標の達成に向け諸活動を行うことができた。次年度は、研究公開の実施に向けて、「徳育」の指導についてさらに図り、自ら考え、感謝できる児童の育成をめざしていきたい。</p>
------------------	---